



里宮神社の祇園祭／甲賀市信楽町多羅尾



好不調のまだら模様の状況がみられ、足踏み状態から上向きはじめた

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数で見ると、原指数は5か月連続のマイナス、季節調整済指数も2か月連続のマイナスとなり、この結果、季調済指数の3か月移動平均値は3か月ぶりのマイナスとなり、全体に弱含みで推移している。

需要面では、大型店売上高については、昨年4月の消費増税に伴う駆け込み需要の反動減という特殊要因が影響し上振れしているとはいえ、平年の同月と比べてもそれらを大きく上回っており、飲食料品を中心に上向きはじめたとみられる。一方、乗用車の新車登録台数は10か月ぶりのプラスとなったものの、これは上記の特殊要因により高い伸びとなったもので、水準自体は平年に比べ高くない。また、軽乗用車も軽自動車税増税の影響とこれに伴う駆け込み需要の反動減により大幅のマイナスとなっている。民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積は商業用で大幅マイナスが続いているものの、鉱工業用とサービス業で大幅増となり、全体では3か月ぶりのプラスとなったが、トラックの新車登録台数は6か月ぶりのマイナスとなり伸び悩んでいる。新設住宅着工戸数は持家が2か月ぶりのマイナスとなったものの、貸家と分譲住宅で大幅のプラスとなったため、全体ではこれも3か月ぶりに前年を上回った。さらに、公共工事は請負件数が3か月連続で前年を下回っているが、金額は前月に続き大幅のプラスとなった。

このような中、雇用情勢を見ると、新規求人数が4か月ぶりに前年を下回り、新規求人倍率、有効求人倍率ともに前月に比べ低下し、回復傾向に足踏み状態がみられる。

また、5月に実施した「県内企業動向調査」によると、今回調査(15年4-6月期)での自社の業況判断DIは、前回(1-3月期)の-12から2ポイント低下の-14となった。消費増税が実施された14年4-6月期以降、5四半期連続で「悪い」が「良い」を上回る状態が続き、停滞感がみられる。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は一部の業種で増産の動きがみられるものの、在庫調整が長引き、全体に弱含みで推移している。一方、需要面では引き続き伸び悩んでいるものがある中で、昨年の駆け込み需要の反動減という特殊要因から上振れしているとはいえ、前向きの動きがみえはじめてきた。したがって県内景気の現状は、好不調のまだら模様の状況がみられ、全体的には今までの足踏み状態から上向きはじめたと考えられる。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、全国的な景気の回復基調を受けて在庫調整が進み、緩やかな回復に向かうものと思われる。また、需要面では、個人消費については家計収入の増加基調を受けて全体に底堅く推移するとみられるが、円安に伴う物価上昇と消費増税などのマイナス要因から消費マインドは引き続き厳しいため、盛り上がりには欠けた展開にとどまるものとみられる。また、新設住宅着工や民間設備投資などの投資関連需要は駆け込み需要の反動減が徐々に和らぐものの、慎重さが残るため弱含みの推移になるものと思われる。

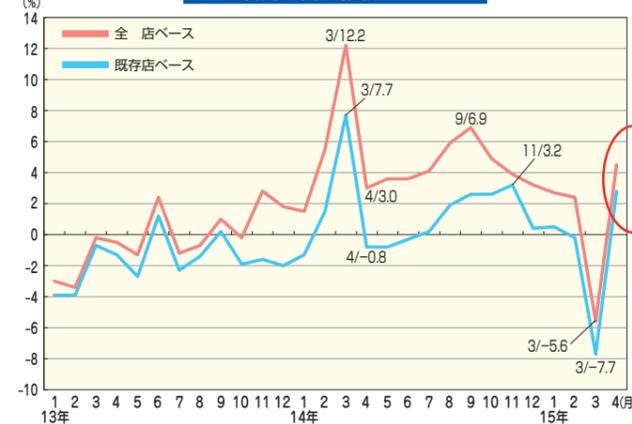
したがって今後の県内景気は、全体に前向きの動きが徐々に増え、回復に向かうと思われるが、緩やかな弱含みの推移になるものと考えられる。

全店ベースの「大型店売上高」は2か月ぶりのプラス

2015年4月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は103.2で、前年同月比+1.1%、前月比+0.3%となり、前年比では24か月連続、前月比でも前月に続きプラスとなった。これは、家庭用耐久財や家事用消耗品、教養娯楽用耐久財などは低下したものの、油脂・調味料や菓子類、家事雑貨、理美容用品などで大きく上昇したためとみられる。なお、エネルギー(電気代、ガス、灯油、ガソリン)は引き続き高水準ながら前年比では3か月連続の低下となっている(121.0、前年同月比-1.9%)。また、「可処分所得(大津市・勤労者世帯)」は5か月連続のプラスとなり(前年同月比+8.8%)、「家計消費支出(同)」も前月に続きプラスとなった(同+12.3%)。

このような所得・消費環境のなか、4月の「大型店売上高(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は101店舗、前年は100店舗)」は22,262百万円、前年比+4.5%で、2か月ぶりのプラスとなった。昨年4月の消費増税に伴う駆け込み需要の反動減という特殊要因があり、高い伸びとなったが(14/4:21,298百万円、同+3.0%)、水準は平年の同月(13/4:20,528百万円、12/4:20,623百万円)と比べてもそれらを大きく上回っている。品目別にみると、ウエイトの高い「飲食料品」は23か月連続で増加し(同+5.0%)、引き続き全体をけん引し、他の品目も上記の特殊要因があるとはいえ、平年と比べても「身の回り品」や「家電機器」の水準は高い。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高も「飲食料品」が再びプラスとなり(同+2.6%)、他のほとんどの品目でプラスとなったため、全体では3か月ぶりに前年を上回った(同+2.8%)。全体に上記の特殊要因が影響し上振れしているとはいえ、飲食料品を中心に上向きはじめたとみられる。

大型店売上高の推移(前年同月比)



4月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」を見ると、「小型乗用車(5ナンバー車)」が9か月ぶり(1,100台、前年同月比+6.7%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」も7か月ぶりに前年を上

回ったため(1,189台、同+22.5%)、2車種合計では10か月ぶりのプラスとなった(2,289台、同+14.3%)。これは昨年4月が駆け込み需要の反動減により大きく落ち込み低水準となったため、水準自体は平年に比べると高くない(13/4:2,685台、12/4:2,509台)。また、「軽乗用車」は4か月連続かつ大幅のマイナスとなっている(1,467台、同-44.9%)。軽自動車税増税の影響とこれに伴う駆け込み需要の反動減によるものとみられる。

乗用車の新車登録・販売台数(前年同月比)



「新設住宅着工戸数」は3か月ぶりのプラス

4月の「新設住宅着工戸数」は750戸、前年同月比+8.7%で、3か月ぶりのプラスとなった。利用関係別で見ると、「持家」は332戸、同-8.0%(大津市73戸など)で2か月ぶりのマイナスとなったものの、「貸家」は296戸、同+26.0%(大津市112戸、東近江市56戸、豊郷町48戸など)で3か月ぶり、「分譲住宅」も122戸、同+41.9%(草津市42戸、大津市35戸など)で5か月ぶり的大幅のプラスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は10か月ぶりに前年を上回り(107戸、前年差+21戸)、「分譲マンション」も4か月ぶりの申請となった(15戸、同+15戸)。なお、「給与住宅」はなかった。

新設住宅着工戸数の推移(前年同月比)

